

Justices and Cultural Diversity Revisited: Views from Whaling

グローバル社会の正義と 文化多様性

捕鯨問題を事例として

9月27日 水

15:15~18:55

参加費無料

事前申し込み制

会場

一橋大学インテリジェントホール

国立西キャンパス・本館東南部 JR中央線国立駅南口から徒歩10分

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/> (右Webサイト図中6番の建物)



プログラム

第1部 講演会

第2部 パネル・ディスカッション

「ふたつの正義の物語」 「捕鯨問題を開く」

※登壇者等について詳細は裏面をご覧ください

近年、マグロ類やウナギ類など、わたしたちに馴染みある水産資源の持続可能性にグローバルな関心が集まっています。

水産資源の管理と利用には、科学的側面だけではなく、文化的・政治的・倫理的課題も考慮されねばなりません。

こうした種々の意見が対立し、閉塞状況にある典型が、いわゆる「捕鯨問題」でしょう。

この現実を直視すべく、ニューヨーク市在住の映画監督・佐々木芽生さんが、

映画『おクジラさま——ふたつの正義の物語』を完成させ、

9月9日、渋谷のユーロスペースを皮切りに全国での劇場公開が始まりました。

佐々木監督が本作品の制作を志した動機は何だったのか？

6年にわたった映画制作の過程で、佐々木監督は何を考えたのか？ 捕鯨問題に出口はあるのか？

反対・賛成の対立を越えていくには、何が必要なのか？

グローバル社会におけるリーダーの創出を目的とする

一橋大学社会学部 GLP(グローバル・リーダーズ・プログラム) では、

同監督による講演会をおこなうとともに、捕鯨問題に詳しい論者を招聘し、

捕鯨問題解決への糸口を探るシンポジウムを開催します。

下記のメールアドレスまで、氏名、連絡先、所属を明記のうえ、お申し込みください。

●問い合わせ・申し込み…… kujira@soc.hit-u.ac.jp (9月13日より受付開始)

●主催…… 一橋大学大学院社会学研究科

●協賛…… 一般社団法人自然資源保全協会 (GGT)

プログラム

15:15 主催者あいさつ 安川 一 一橋大学大学院社会学研究科長

15:20 趣旨説明 赤嶺 淳 一橋大学大学院社会学研究科教授

第1部 講演会 15:30~17:00

「ふたつの正義の物語」

15:30 『おクジラさま』一部上映

16:00 「『おクジラさま』を撮りながら考えたこと」
佐々木 芽生 映画監督／プロデューサー

休憩 17:00~17:20

第2部 パネル・ディスカッション 17:20~18:55

「捕鯨問題を開く」

17:20 基調講演「捕鯨をめぐる対立の構造」
森下 丈二 東京海洋大学教授／IWC日本政府代表

17:40 パネル・ディスカッション「捕鯨問題を開く」

パネリスト……佐々木 芽生 映画監督／プロデューサー
(敬称略)

高屋 繁樹 水産庁国際課捕鯨室長

坂元 茂樹 同志社大学法学部教授(国際法)

庄司 義則 外房捕鯨株式会社社長

井田 徹治 共同通信社編集委員兼論説委員

大久保 彩子 東海大学海洋学部准教授(環境政策論／海洋政策論)

Nikolas Sellheim 日本学術振興会特別研究員(法人類学／アザラシ漁研究)

司会……………赤嶺 淳

※講演およびディスカッションには日・英同時通訳があり、『おクジラさま』の一部上映には英語字幕がつきます。



講師プロフィール



佐々木 芽生氏
映画監督／プロデューサー

札幌市生まれ。青山学院大学文学部仏文学科卒業。1987年よりNY在住。ベルリンの壁崩壊をきっかけに東欧に渡り、Yomiuri Americaなどでルポを連載するなどフリーのジャーナリストとして活躍。1992年よりNHKニューヨーク総局に勤務。1996年に独立し、ドキュメンタリーの取材・制作に携わる。2002年、映像制作プロダクション(株)ファイン・ライン・メディアをNYで設立。2008年、NYでアート収集を趣味とする老夫婦を取材した初の監督・プロデュース作品『ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人』を公開し、ハンプトン国際映画祭最優秀ドキュメンタリー作品賞をはじめ、全米各地の映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞、観客賞を受賞。三作目にあたる『おクジラさま』は、釜山国際映画祭ほか、世界の映画祭で上映中。日本では9月より劇場公開。



森下 丈二氏
東京海洋大学教授／IWC日本政府代表

大阪府生まれ。京都大学農学部水産学科卒業。米国ハーバート大学大学院卒業(公共政策学修士)。農学博士(京都大学)。1982年農林水産省入省。国連環境開発会議(地球サミット)、ワシントン条約会議など、海洋生物資源の保存管理の観点から一連の環境問題について担当。1993年より在米国日本大使館一等書記官。捕鯨問題、大西洋マグロ保存国際委員会を中心に日米漁業交渉を担当。帰国後水産庁に復帰し、1996年より国際課にてミナミマグロ問題などを担当。1999年より遠洋課捕鯨班長として、国際捕鯨委員会(IWC)の日本代表団の一員として活躍。2008年より水産庁参事官。2013年より水産総合研究センター国際水産資源研究所所長を経て2016年4月より現職。現在、北太平洋漁業委員会(NPFC)科学委員会議長、国際捕鯨委員会(IWC)議長を務める。